

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

新しき玄関開き出てみれば 空には月の煌々と照る 宮園 金子フム子

雨戸繰る夫の声に駆け寄って見上げし空に十六夜の月 安永 川野 光子

籠りいし夫はいそいそダイケアに 人の交流 楽しみにして 惣領 島田 廣子

碁敵を迎えて楽し一日も 黄昏どきのくるのは悔し 馬水 西田 正己

わが膳に柿の葉一枚添えてあり 萬の愛は膳に現れ 惣領 小森英美子

有明の海静まりて山並みは影絵となりて一日暮れゆく 安永 山下たか子

野の花の優しき名前教わりて 日記に留め一日終わりぬ 小谷 今吉マキ子

闇揺れて顔に気配を感じれば猫が入り来る随兵寒合 広崎 松原まゆみ

針の目に糸が通らぬもどかしさ 小遣いねだる孫を手招く 赤井 増岡 伸禧

コスモスは雑草の中高く伸び 赤とピンクが競い合ってる 宮園 島 みつき

月明かり月下美人を例うれば夜半に咲いたる白い貴婦人 寺迫 今村 文子

投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

大輪の清しき白や菊の宴

出勤の土堤に朝顔かぞえけり

秋空に飛行機雲の白い道

コスモスや更地の庭に吹かれをり

彩りに惹かれ手に取る柿落葉

児らの影少ない町の祭りかな

軒高くまぼろし見たり柿すだれ

秋晴れに終の棲家の棟あがる

粧える峰や被災の遭難碑

一句鑑賞

秋風や眼中のもの皆俳句

広崎 松原まゆみ

宮園 野口志津子

寺迫 今村 文子

小谷 今吉マキ子

木山 今吉美美江

赤井 増岡 伸禧

平田 城 陶子

木山 山口サツキ

田原 辻ヶ峰子

高濱 虚子

狂句

田上 富岳 選

村まつり 今年是谁が稚児になる

村まつり みこし担ぎに帰ろかな

村まつり とりもつ縁によか出会い

村まつり 悪ガキどんがちのうどる

村まつり 主役の社無くなりし

村まつり 余興の方がホンチャどん

尻をたたかれ 雨風負けず無欠席

尻をたたかれ 日が暮れよるぞ飯まだか

尻をたたかれ 共働きもしよったね

赤井 鈴木 駒

木山 今吉美美江

赤井 増岡 酔粋

小谷 まさのり

広崎 松原まゆみ

宮園 井藤 吉郎

辻の城 岸良真由美

馬水 西田 正己

江津 高田美佐子

狂句次号の課題「ハイカラが「冷やかして」

マミノウ道路から約1.5km、中尾地区の中心部の小高い丘の33段の石段を登ると、そこに不動堂があり、中尾地区全体を見守るように建っています。堂内には不動明王像、矜羯羅童子像と制吒伽童子像(いずれも不動明王の脇侍を務める)、地藏尊像が安置されています。資料によると、かつてこの地には「大徳寺(開基時期等不明)」という寺院があり、不動明王像が安置されていたようです。堂宇の南横と上方には2基の逆修板碑(逆修とは生前に自分の死後の供養をすること)があり、それぞれ天文23(1554)年、弘治2(1556)年の年号が刻まれています。不動明王は、大日如来の化身としてすべての悪と煩惱を抑え鎮め、生ある者を救う仏として、平安時代から信仰されてきました。忿怒(怒ること)の姿で、右手に悪を断ち切るとされる剣、左手に救済する繯索を持ち、火焰を背負う姿が一般的とされています。

益城の文化財 町文化財保護委員会 発掘益城

下 陳

中尾不動明王 [大徳寺跡]